

もっと知りたい、
 もっと伝えたい

もっと活用術

第7回
 『カナケンディスボ鍼【はり皿付】フェイスタイプ Part2』編

北川氏は、世界各地の富裕層を顧客とし、約6割をリピート顧客するアジア最高峰のディスティネーション・スパ「チバソム・インターナショナル・ヘルス・リゾート」(Chiva-Som International Health Resort)に、日本人の鍼灸師としては、初めてゲストコンサルタントとして招聘され、世界各地から集まる滞在客を対象として、定期的に期間限定で日本の「鍼灸治療」と「美容鍼灸」の施術を提供しています。

二指推鍼法の実際

「二指推針法」とは、鍼管を使用せず、母指と示指の「二指」を用いて針を押し進めるように切皮と刺入を行うという極めて単純な刺鍼技術です。前述した通り、この刺針法は、「カナケンディスボ鍼(はり皿付)フェイスタイプ」を含む現代の鍼灸針の一定の品質と性能に依存して実現される技法であることから、過去の世界においては、いかなる名人であっても実現できたものではありません。また、現代においても、全ての鍼灸針に適用できる技法ではなく、一定上の品質と性能を備えた鍼灸針を使用しなければ、この技法を用いることはできません。

二指推鍼法の手順

1. 母指と示指で鍼柄をしっかりと固定する
2. 刺入部位を特定し、針尖を刺入部位の皮膚に軽く当てる
3. 刺入角度を決定する

必ずしも必要なものではありません。そして、前述した通り、製造技術の進歩によって進化を遂げた一部の日本製鍼灸針で刺針を行う場合には、鍼管は必ずしも必要でないというのが私の見解です。また、ディスボザブルタイプの鍼灸針には、ディスボザブルタイプのプラスチック製の鍼管が付属している場合がほとんどです。つまり、地球上のいたるところで、毎日、使用された鍼灸針と同じ数の



今回は前号で説明が不足していた「二指推鍼法」のすすめを北川先生に執筆していただきました。



世界における美容鍼灸の第一人者。独自の発想と手法で世界最高峰の技術を確立。



北川 毅 (きたがわ たけし)
 YOJO SPA オーナー、一般社団法人日本美容鍼灸協会 代表理事、日本健康美容鍼灸研究会 会長、全日本鍼灸マッサージ師会 スパ事業委員会委員、日本中医学会 評議員、東方健康 統括院長、チバソム・インターナショナル・ヘルス・リゾート(タイ) ゲストコンサルタント

東京・港区のYOJO SPAにて鍼灸治療と美容鍼灸の施術を実践するかわら、鍼灸、美容、スパに関する教育、講演、執筆、翻訳、研究まで、幅広く活動中。

■ 著書、監修、翻訳
 『鍼灸師のための健康美容鍼灸』(BABジャパン)
 『DVD 美容鍼灸の実践』(医道の日本社)
 『きれい＆元気になるツボ』(池田書店)

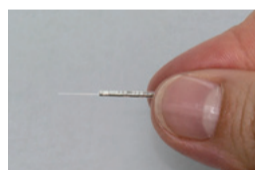


4. 母指と示指で刺入する方向に対して忠実に圧力をかける
5. 目的の深さに達するまで刺入する

二指推針法は、鍼管を使用しないという点では、中国の速刺法と共通していますが、この技法では、切皮は勢いや速度に依存して行わず、比較的緩やかな速度で自然に行われることが大きな特徴です。そして、このような技法が成立するのは、一重に鍼灸針の性能(針尖の切れ味)によるものであり、「フェイスタイプ」は鍼管を使わなくても、十分に円滑で切皮痛の少ない刺針を実現できる機能性を備えています。

二指推鍼法の利点

1. 正確な刺針を実現する
2. 鍼管が不要
3. 押し手が不要(清潔である)



▲針の長さは9mm。針管がない分短くできる。

1. 正確な刺針
 顔面部の経穴は正確な取穴と刺針が要求される場合が少な

プラスチック製の鍼管が廃棄され続けているということであり、「Ecology」(自然環境保護)の視点から理想的な状況であるとは言えません。同時に、補助具としてのプラスチック製の鍼管が不要になれば、メーカーの製造コストが削減され、結果として、ディスボザブル鍼灸針の販売価格が安くなるということも考えられるのではないのでしょうか。

3. 押し手が不要(清潔である)

二指推鍼法は、鍼管を使用しない刺針法であるため、「押し手」も必要とされません。押し手については、全世界的に賛否両論があり、日本独自の技法であることから、国内では尊重する姿勢が望まれています。しかし、一方では、WHO(世界保健機構)ばかりでなく、米国疾病対策センター(Centers for Disease Control and Prevention: CDC)、米国職業安全衛生局(Occupational Safety and Health Administration: OSHA)、米国鍼灸財団(National Acupuncture Foundation)などは、いずれも「Clean needle technic」(清潔な刺針技術)の観点から否定的な見解を示しています。二指推鍼法は日本製の鍼灸針の優れた機能性に立脚した日本発の独自の技法であり、

くありません。特に「睛明」や「陽白」などの経穴に対する刺鍼では、1ミリ未満の誤差によっても適切な反応を得ることができない場合があります。一方、鍼管には一定の内径があるため、上記のような経穴に対して正確な刺針を行うことができない場合があります。特に、ディスボザブル鍼灸針に付属しているプラスチック製の鍼管は、内径が比較的に大きいものも存在するため、このような製品を使用した場合には、鍼管の内径の大きさに起因して、目標とする穴位や部位に対する刺鍼の正確さが失われることとなります。一方、二指推鍼法では、最初に針尖を皮膚に接触させてから刺鍼を行うため、目的とする穴位や部位に対する正確な刺鍼を実現することができるだけでなく、要求される刺入の角度に対して極めて柔軟に対応することができます。

2. 鍼管が不要

「鍼管」は、刺針という鍼灸針の目的を容易に遂行するための「補助具」に過ぎません。すなわち、それは水泳で言えば「浮き輪」、自転車の走行で言えば「補助輪」に相当するものであり、本来の目的を果たすことに差し支えがなければ、

現在のところ、欧米でも、中国でも、韓国でも行われていません。つまり、現時点では、極めて清潔に実践することができる日本独自の刺針技術であると言っても過言ではありません。

— DATA —

日本健康美容鍼灸協会(健美会)

日本健康美容鍼灸協会(健美会)では、利用者に対して「満足」「安全」「安心」の美容鍼灸を提供できる鍼灸師の育成を目標に掲げ、定期的に『カナケンディスボ鍼』の使用法を含めた「美容鍼灸・実践鍼灸セミナー」を開講しています。

電話: 03-3560-6172
 URL: <http://ameblo.jp/kenbi-kai>

※『もっと活用術』では取材先を募集中です。HPからも受け付けいたします。ご感想もぜひ、お寄せください。